

背景 『改製扶桑(日本)分里図』(1768年)

赤水が初めて完成させた日本地図です。のちに発行される「赤水図」の原図となりました。

⑥ 『唐土歴代州郡沿革地図』(1789年)

中国の歴史地図帳で、日本初の折り畳み式地図です。

⑦ 『大清広輿図』(1783年)

藩主・治守の命によって完成させた当時の中国地図です。

⑧ 『大日本史地理志』(表紙)

徳川光圀が始めた『大日本史』の地理志です。藩主・治保の特命を受けて赤水は編纂に生涯をかけました。明治39年に『大日本史』が完成したのち、その功績が認められ、明治44年、政府より従四位が赤水に追贈されました。

⑨ 小惑星「Nagakubo」軌道図

1992年、札幌市の天文家によって発見された小惑星です。天文学にも造詣が深かった赤水をアピールしようと、高萩市の天文愛好家の働きかけによって2016年4月に命名されました。

⑩ 『地球万国山海輿地全図』(1785)

赤水の作成した世界地図です。

長久保赤水生誕300年記念



切手シートのご説明



切手シート配置図

長久保赤水 (1717-1801)

江戸中期、1717年(享保2年)、奥州道筋の赤浜村(現在の高萩市赤浜)で生まれました。弟、母、父と死別する不遇な幼少期を過ごしましたが、勉学に励み、才覚を見出されたことで水戸藩主・徳川治保(はるもり)の侍講となります。

江戸に上り藩政へ携わると、『改正日本輿地路程全図』を完成させました。さらに『大日本史地理志』の編纂にも尽力し、故郷・赤浜村に戻ったのち85歳で生涯を閉じました。

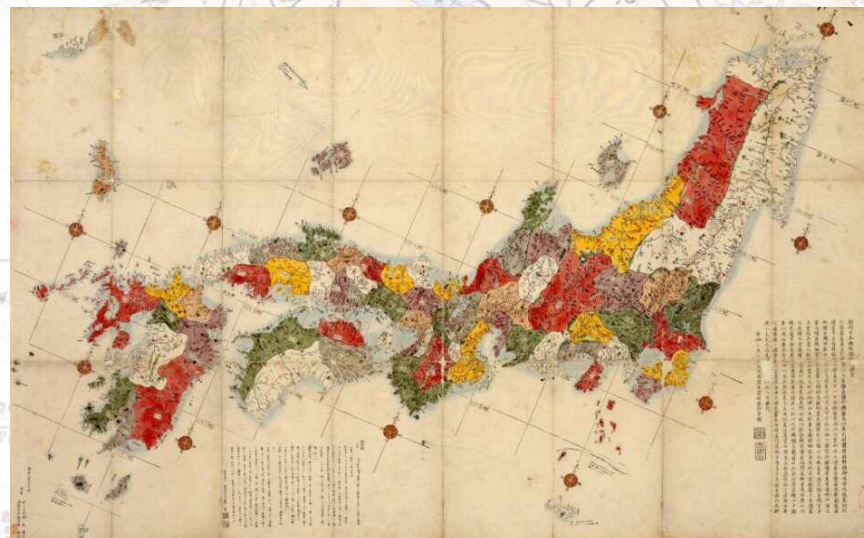


現在の高戸小浜
(高萩市HPより)

① 『改正日本輿地路程全図』(1779年完成、翌年発行)

赤水が完成させた日本地図で、「赤水図」と呼ばれています。緯線と縦線を記されたこの地図が完成したのは、伊能忠敬による日本地図の40年余り前の1779年のことでした。

当時のベストセラーとなり、庶民はもちろん、幕末の指導者たちの間で広く愛用されました。



幕末にはシーボルトによって海外へ持ち出され、ヨーロッパで紹介されました。最近の研究で、イギリスのケンブリッジ大学やドイツの博物館などで保存されていることが明らかになっています。

また、現在の竹島が当時の名称「松島」として記載されていることから、日本の竹島領有の根拠資料の一つとなっています。